

今から10年ほど前までは、新日鐵は世界で一番の生産量を誇り、世界の鉄鋼業界でリーダーとして君臨して参りましたがアルセロール・ミッタルの出現によって首位の座を奪われてしまいました。当時の君津製鐵所所長だったO氏が「一番であるとならないのでは仕事はなかなか思うように行かないものです」とつくづくと述懐されておられた事を覚えております。

鉄鋼の生産能力はその国の産業力、国力の大本として評価、重要視されており、各国共鉄鋼の自給力には多大な関心を持ち、また努力をいたしております。

戦後、世界の鉄鋼生産は7億屯台で推移いたして参りましたが2000年代に入ってからには毎年ほぼ1億屯ずつ伸び、昨年は14億屯と過去最大の生産に達しております。

2006年、ミタルがアルセロールを買収して新日鐵の3倍もの巨大グループ(9820万吨)となり、中国でもオリンピック、万博で国内需要が増大して新日鐵と友好関係にある宝鋼集団(3700万吨)は世界第2位へと上昇。韓国も経済界出身の大統領による官民一体の護送船団方式もあって、輸出を大きく伸ばす中でこちらも新日鐵の前身である八幡製鐵所以来の資本比率5%ずつ持ち合う関係のポスコ(3540万吨)が3位にあります。

ポスコは一時自動車鋼板の最大の販売先であった現代自動車自主鉄鋼生産を始め、窮地に立ったのでしたが、これを機会に原価・生産性・建設原価のコストダウンに大成功し、更にウォン安の波に乗っており、我が新日鐵は3500万吨で4位であります。住金(1330万トン)が加わりますと4830万吨となりますが、合併後は6000万吨~7000万吨を目指し、収益も1500億円を目標とするようであり、世界第2位の地位となり、ブラジルのウジミナス等を加えればさらに大となります。

今、新日鐵と宝鋼集団の株式相互持ち合いが進んでおりますので、新日鐵、宝鋼、ポスコの企業連合が成立すると単純に数えても1270万吨となりますので、アルセロール・ミタルへの買収防衛は成り立つものと思えます。

新日鐵三村会長は、市場では激しく競合しているが、長い歴史を共有しており深い信頼感を緩やかな提携統合に生かすことがシナジーな効果が生まれると言われております。

私達は鉄鋼業界に教えられるように、巨大企業でさえ個々では生き残れない時にはライバルに技術提供し、株を持ち合って共に助け合い、分かち合う先見性を持ち、決断する勇気を持たなければなりません。

友好の中でも、韓国勢のハイテンに対する技術、コストダウン(生産性・製造原価)は日本に迫っておりますが、新日鐵のスカイツリーに見られる700ニュートンの超高度鋼管PHY700PB、住金の熱間プレス用世界最強度鋼板SQ1800と世界が追従できない技術能力を日本は持っております。

四市、会議所の合併も世界の企業と同じであります。

会議所の合併も世界の企業と同じであります。もっと胸襟を開いた交流を進めたいものです。

なお文中の() 数値は、資料及び年度により異なりますのでご了承ください。

今年もきみつ産業フェアを11月5日(土)、君津市民文化ホールにて開催いたします。皆さん是非ともご参加ください。